

五省会ニュース

発行所
 特定医療法人五省会西能病院
 〒930 富山市五福1130
 TEL (0764) 41-2481(代)
 発行人 西能 正一郎

五省
 一言に惚るなかりしか
 一言行に惚るなかりしか
 一努力に惚るなかりしか
 一不精に惚るなかりしか

受け入れ体制が完備

人間ドックが軌道に

健康事業部を新設

開院三十一周年を迎えた西能病院は、新しい機構づくりとして、三月一日付で健康事業部を、また看護部に副部長制(二人)を新設し、体制を強化した。さらに地域に開かれたより良い病院として、医療、健康、福祉などに取り組んでいくことにしている。



山本部長

半日コースを新設 体力測定も取り入れ

山本健康事業部長の話
 健康事業部は現在四人編成で、人間ドックと地域医療を包括して担当することになりました。

昨年十月に開設した人間ドックの受け入れが完備したので四月一日から本格的にスタートする。これに伴い人間ドックと地域医療を合わせた初代健康事業部長に山本玲子看護部長が就任(兼務)した。これより先、人間ドック推進部長として仙田光彦氏(元北銀人事部調査役)が営業関係に

これについて西能院長は「最近の医療界の動きとしては、病気の予防や健康の増進を重視する傾向にあります。当院でも、昨年からは健康部門の準備を進めてきたが、いよいよ軌道に乗る運びとなりました。皆さまのご利用と、ご支援をお願い申し上げます」と語っている。

永年勤続者を表彰

開院三十一周年記念式で

西能病院は開院三十一周年記念式を三月二十一日、五階ホールで挙行、つぎの永年勤続者十五人を表彰した。

永年勤続表彰者
 △三十年(二人) 石倉喜一、津田勝美
 △二十五年(二人) 三原八重子、中山栄子
 △二十年(二人) 坪内奈津子、用水とも子
 △十年(二人) 大浦春美、宮原佳子
 △五年(七人) 岡田智子、坂東ひろみ、中永久光、渡辺裕之、米田絹代、森口佳子、石橋富美子(敬称略)



仙田部長

ハイレベルの 検診をPR

仙田人間ドック推進部長の話
 県内の各企業体や地域の方々を訪問、専門医によるハイレベルな検診と、最新の医療機器など諸機能の優秀性を大きくPRし、検診の勧誘を行っております。私たちスタッフは、健康をチエックされる大切なお客様をお迎えして、常に明るく、笑顔で接します。そして検診がスムーズに進みますよう、とめてまいります。

反省と努力を

西能 正一郎

今年もまた三月二十一日がやってきました。毎年開院記念日と称して色々な想いをこめて迎えております。

全員が病気を合理的に治す研鑽を

境よりは、ホテルのよう

西能整形外科医院の開院は昭和三十七年のことでありますので、その前年の三十六年に国民皆保険が達成されました。又ほとんど老人医療が無料となる措置が取られました。それで医療機関を利用する患者さんは放っておいても自然に増えて、病院をあづかる者としては、まさに我が世の春でありました。

日本の医療費は現在でも先進諸国に比べて非常に低額なのでありますが、政府の予算に合わないということから、医療費の圧縮の方向が打ち出されたのは昭和五十六年からであります。

昨今、高齢者は少くも病気があってもあたりまえで、病院に収容することは止めて、なるべく施設で生活してもらおう、あるいは自宅で過ごされる援助という方向に急がりました。今まで患者さんだと思っていた方々が患者さん

と、今考えてみますと、私は運良く良い時に開業しただけであって、病院運営の手腕があったといえるようなことではなかったのだと気付きました。これらの追い風によって、四十

年、四十二年、五十八年と相次いで病院の増改築を行い、百八十五床の現在の姿になってまいりました。

このように自由に医療を利用出来るようになった上に、医療技術の向上、機器、薬剤の高度化、更に高齢化社会の到来という追い打ちにあつて、医療費が膨張するのは自然の理でありまして、国民医療費が毎年一兆円も伸びるようになってまいりました。

まっていますし、食事も上等に越したことはありません。が、病院が何よりも果さねばならないことは、病気を治すことであると思ひます。私共は医師を始め看護婦、医療にかかわる全員が、絶えず研鑽して、今ある患者さんの病気を最も合理的に治してさし上げることに生かされるものもそのせい方がある。新宗教が次々に生まれるのもそのせいともいえるが、既成の宗教が形式化し、人間救済への眼差しが忘れられていることにも関係があるろう。

昭和37年3月 富山市星井町で、病床十九床、職員八人の西能整形外科医院を開院
 38年9月 救急車(プリンス)を購入
 38年12月 富山市五福で、四十七床の西能整形外科病院を開院
 39年5月 救急病院に認定
 40年4月 第一期増築工事(鉄筋三階建、塔屋一階)が完成、二十七室、七十七床で開設
 41年12月 救急車(プリンス)を購入
 42年3月 患者通院用マイクロスコープを購入
 43年8月 第二期増築工事(鉄筋四階建、塔屋一階)が完成、三十四室、百十六床に。同時にリハビリテーション部が完成
 44年7月 富山大橋橋脚沈下、国道8号線不通で、地鉄ビルに臨時診療所を開設
 48年12月 牛岳スキー場に救急隊派遣
 52年3月 職員寮が完成、かたかご保育園が同時落成
 53年4月 医療相談室を開設
 54年5月 内科外来の診療を開始
 54年10月 医療法人・財団五省会が認可
 56年3月 特定医療法人に承認
 58年3月 第三期増改築工事(増築は鉄筋五階、一部六階建)が竣工、百八十五床に
 58年4月 内科病棟を新設
 58年10月 集団給食部門で厚生大臣賞
 59年9月 外来患者累計が百万人を突破
 60年9月 健康教室(毎月一回)を開催
 60年11月 泌尿器科と神経内科外来を新設
 61年9月 入院患者累計が百万人を突破
 61年12月 基準看護特2類の実施承認
 62年4月 地域医療チームを編成、訪問看護などの活動を開始
 62年4月 スポーツ外来を開設
 63年4月 日曜、祝日を返上した外来休日診療(内科、整形外科、リハビリ)がスタート
 63年4月 入浴車の無料サービスを開始
 平成2年12月 神通川以西の新コース二つで通院バスを増車
 3年5月 医薬分業がスタート
 4年7月 心療内科を開設
 4年10月 人間ドックを開設。兵庫医大第四内科の田村、川浦両医師が担当

あすなろ

いつも今ごろになると春は名前のみの風の寒さよ...という歌を思い出す。確かに風は冷たいが三月も半ばになるとすっかり春めく。今冬もまた暖冬小春で終わった。うだうだ関西にいくと「お水取りがすむと春がやってくる」という。三月一日からの奈良・東大寺二月堂の修二会(しゅにえ)は、十三日未明の「お水取り」でクライマックスになる。若狭井(わかさい)と呼ぶ井戸から香水を汲み、本堂の仏前にそなえる仏事だ。その前夜はあかあかと燃えさかる籠松明(かごたいまつ)をかきつけて童子が舞台へかけ上がる。欄干から突き出された籠から火の粉が滝のように流れ落ちる。この火の粉を浴びると厄よけになるといふ。この「水を向ける」という言葉がある。これはミコが霊を呼び出す時に水を差し向けることから、先方の決意をある方向へと向けるよう誘いかける意味になった。霊を呼ぶなどは大昔の話と思つていたら最近なぜか「靈魂ブーム」といふ。各種の世論調査によると、霊やあの世の存在に関心を抱く日本人は六割を超えている。現代の異界や幽霊や妖怪の背後には、都市化が進み、家族の崩壊や複雑な人間関係からくる不安や不満があるという見方がある。新宗教が次々に生まれるのもそのせいともいえるが、既成の宗教が形式化し、人間救済への眼差しが忘れられていることにも関係があるろう。



西能病院三十一年のあゆみ

昭和37年3月 富山市星井町で、病床十九床、職員八人の西能整形外科医院を開院
 38年9月 救急車(プリンス)を購入
 38年12月 富山市五福で、四十七床の西能整形外科病院を開院
 39年5月 救急病院に認定
 40年4月 第一期増築工事(鉄筋三階建、塔屋一階)が完成、二十七室、七十七床で開設
 41年12月 救急車(プリンス)を購入
 42年3月 患者通院用マイクロスコープを購入
 43年8月 第二期増築工事(鉄筋四階建、塔屋一階)が完成、三十四室、百十六床に。同時にリハビリテーション部が完成
 44年7月 富山大橋橋脚沈下、国道8号線不通で、地鉄ビルに臨時診療所を開設
 48年12月 牛岳スキー場に救急隊派遣
 52年3月 職員寮が完成、かたかご保育園が同時落成
 53年4月 医療相談室を開設
 54年5月 内科外来の診療を開始
 54年10月 医療法人・財団五省会が認可
 56年3月 特定医療法人に承認
 58年3月 第三期増改築工事(増築は鉄筋五階、一部六階建)が竣工、百八十五床に
 58年4月 内科病棟を新設
 58年10月 集団給食部門で厚生大臣賞
 59年9月 外来患者累計が百万人を突破
 60年9月 健康教室(毎月一回)を開催
 60年11月 泌尿器科と神経内科外来を新設
 61年9月 入院患者累計が百万人を突破
 61年12月 基準看護特2類の実施承認
 62年4月 地域医療チームを編成、訪問看護などの活動を開始
 62年4月 スポーツ外来を開設
 63年4月 日曜、祝日を返上した外来休日診療(内科、整形外科、リハビリ)がスタート
 63年4月 入浴車の無料サービスを開始
 平成2年12月 神通川以西の新コース二つで通院バスを増車
 3年5月 医薬分業がスタート
 4年7月 心療内科を開設
 4年10月 人間ドックを開設。兵庫医大第四内科の田村、川浦両医師が担当

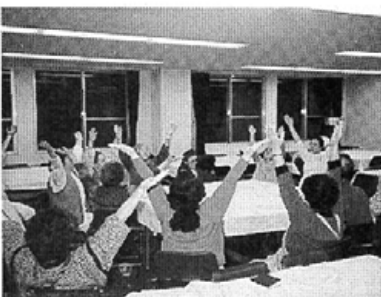
健康・体力・生きがいづくり

健康教室を再開

熱心にメモをとる姿も



西能院長が「腰痛について」＝五階ホールで



三月(二十七日、五階ホール)から、のびやか体操を継続する

▶通院バスが好評です



地域医療チームは、しばらく休んでいた健康教室を今年一月から再開した。地域からの要望によるもので、一月三十日、五階ホールで西能院長が「腰痛について」＝五階ホールで

西能院長が「腰痛について」＝五階ホールで

西能院長が「腰痛について」＝五階ホールで

西能院長が「腰痛について」＝五階ホールで

西能院長が「腰痛について」＝五階ホールで

西能院長が「腰痛について」＝五階ホールで

西能院長が「腰痛について」＝五階ホールで

西能院長が「腰痛について」＝五階ホールで

西能院長が「腰痛について」＝五階ホールで

西能院長が「腰痛について」＝五階ホールで

西能院長が「腰痛について」＝五階ホールで

西能院長が「腰痛について」＝五階ホールで

西能院長が「腰痛について」＝五階ホールで

西能院長が「腰痛について」＝五階ホールで

西能院長が「腰痛について」＝五階ホールで

西能院長が「腰痛について」＝五階ホールで

ある日の外来

八時半から診療開始
この日は土曜日。一番早い患者さんは七時十分頃。整形外科の診療が始まる八時半には二十三人が受付をすまされた。

初診の患者さんも次々と
当院には整形外科、内科、リハビリテーション科があり、毎日朝早くから夜七時すぎまで診療している。たくさんのお客さんが来院されています。

待ち時間が短い
リハビリ外来の桑名としいさん(六八歳)にもお話をうかがいました。

この日は二六六
午前中にストレッチャーで車から診察室まで運ばれた女性(七七歳)と、夕方、救急車で運び込まれた女性(七八歳)が入院。

ストレッチャーで運ばれた患者さん
ストレッチャーで運ばれた患者さん

ストレッチャーで運ばれた患者さん
ストレッチャーで運ばれた患者さん

ストレッチャーで運ばれた患者さん
ストレッチャーで運ばれた患者さん

ストレッチャーで運ばれた患者さん
ストレッチャーで運ばれた患者さん

ストレッチャーで運ばれた患者さん
ストレッチャーで運ばれた患者さん

先生の

医者として患者さんのありたい姿を求めて

大山 馨 内科部長



◎プロフィール
大正十三年北海道生まれ、金沢医科大学を卒業し、同大学勤務後、昭和二十六年から富山県立中央病院に勤務。その後、アメリカに留学し内科学を学び、平成元年三月に退官するまで、十九年余り同病院内科部長を務めた。脂質、腫瘍などについての実験成績が高く評価されている。西能病院に請われて平成元年四月から内科部長に就任。当院の内

科部門の充実を注いでいる。大山先生は、長い勤務生活の中で、病気の患者さんだけでなく、健康な人にも「病気を治す」という目的を持って、中央病院時代からの患者さんを始め、来院している。

「付添人が口出しすぎると困ります。どんな薬を出してきても、本人はわからない。本人に説明が必要。本人に説明が困難な人は、治さずとも努力を怠らなければいい。本人に説明が困難な人は、治さずとも努力を怠らなければいい。」

「病気を治す」という目的を持って、中央病院時代からの患者さんを始め、来院している。

「病気を治す」という目的を持って、中央病院時代からの患者さんを始め、来院している。

「病気を治す」という目的を持って、中央病院時代からの患者さんを始め、来院している。

「病気を治す」という目的を持って、中央病院時代からの患者さんを始め、来院している。

「病気を治す」という目的を持って、中央病院時代からの患者さんを始め、来院している。

「病気を治す」という目的を持って、中央病院時代からの患者さんを始め、来院している。

地域への声を聞く
高齢化社会に望むこと
今回は、高齢化が進むなかで、不安に思っていることや提言を聞きました。

高齢化社会に望むこと
何十年も前に胃潰瘍になったのですが、その痕跡が検出された。レントゲンに写り、毎年胃カメラを飲まされ、胃カメラを飲むことと繰り返して。一人暮らしなので健康管理のうえでも検診は受けなきゃと思うのですが、胃カメラの費用をどうにかできないかと思っています。これじゃ、私自身が医者へ通うことにもなりません。(七二歳・男性)

高齢化社会に望むこと
高齢化が進むなかで、不安に思っていることや提言を聞きました。

高齢化社会に望むこと
高齢化が進むなかで、不安に思っていることや提言を聞きました。

高齢化社会に望むこと
高齢化が進むなかで、不安に思っていることや提言を聞きました。

高齢化社会に望むこと
高齢化が進むなかで、不安に思っていることや提言を聞きました。

高齢化社会に望むこと
高齢化が進むなかで、不安に思っていることや提言を聞きました。

高齢化社会に望むこと
高齢化が進むなかで、不安に思っていることや提言を聞きました。

高齢化社会に望むこと
高齢化が進むなかで、不安に思っていることや提言を聞きました。

高齢化社会に望むこと
高齢化が進むなかで、不安に思っていることや提言を聞きました。

高齢化社会に望むこと
高齢化が進むなかで、不安に思っていることや提言を聞きました。

高齢化社会に望むこと
高齢化が進むなかで、不安に思っていることや提言を聞きました。

高齢化社会に望むこと
高齢化が進むなかで、不安に思っていることや提言を聞きました。

高齢化社会に望むこと
高齢化が進むなかで、不安に思っていることや提言を聞きました。

高齢化社会に望むこと
高齢化が進むなかで、不安に思っていることや提言を聞きました。

高齢化社会に望むこと
高齢化が進むなかで、不安に思っていることや提言を聞きました。

高齢化社会に望むこと
高齢化が進むなかで、不安に思っていることや提言を聞きました。

高齢化社会に望むこと
高齢化が進むなかで、不安に思っていることや提言を聞きました。

高齢化社会に望むこと
高齢化が進むなかで、不安に思っていることや提言を聞きました。

高齢化社会に望むこと
高齢化が進むなかで、不安に思っていることや提言を聞きました。

高齢化社会に望むこと
高齢化が進むなかで、不安に思っていることや提言を聞きました。

高齢化社会に望むこと
高齢化が進むなかで、不安に思っていることや提言を聞きました。

夫婦同居の特長
父も母も年を取って病弱ですが、二人で支えています。いっしょにホームへ入りたいと言っているのですが、国民年金で暮らしているから、有料の所へは入れません。特別養老ホームに夫一人暮らしで暮らしています。

夫婦同居の特長
父も母も年を取って病弱ですが、二人で支えています。いっしょにホームへ入りたいと言っているのですが、国民年金で暮らしているから、有料の所へは入れません。特別養老ホームに夫一人暮らしで暮らしています。

夫婦同居の特長
父も母も年を取って病弱ですが、二人で支えています。いっしょにホームへ入りたいと言っているのですが、国民年金で暮らしているから、有料の所へは入れません。特別養老ホームに夫一人暮らしで暮らしています。

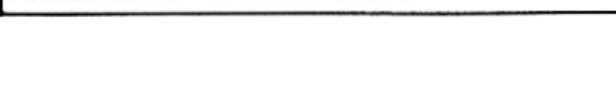
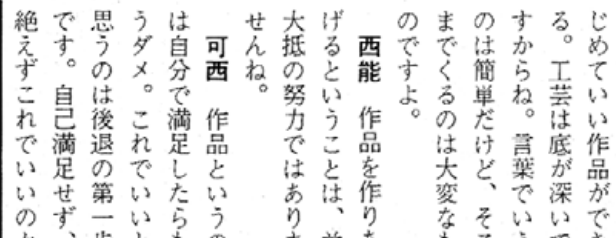
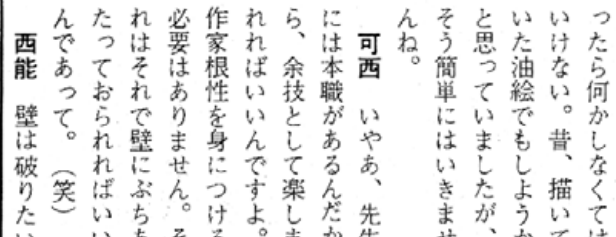
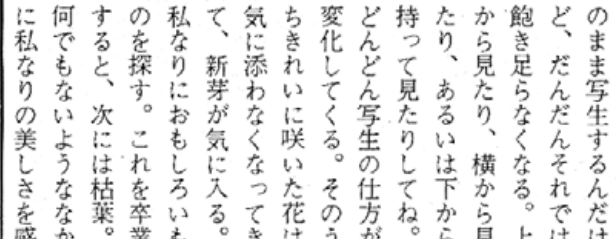
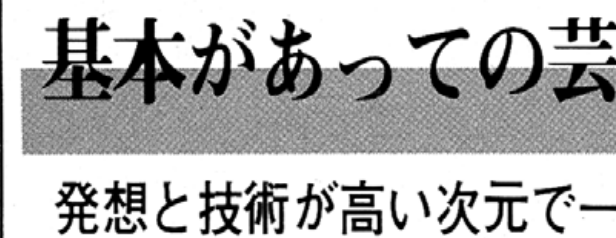
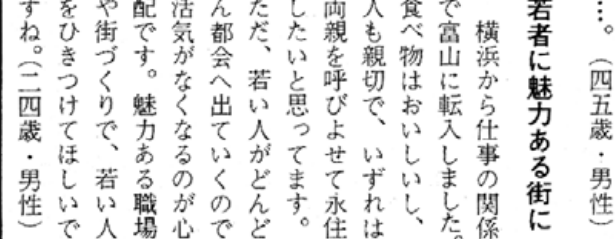
夫婦同居の特長
父も母も年を取って病弱ですが、二人で支えています。いっしょにホームへ入りたいと言っているのですが、国民年金で暮らしているから、有料の所へは入れません。特別養老ホームに夫一人暮らしで暮らしています。

夫婦同居の特長
父も母も年を取って病弱ですが、二人で支えています。いっしょにホームへ入りたいと言っているのですが、国民年金で暮らしているから、有料の所へは入れません。特別養老ホームに夫一人暮らしで暮らしています。

夫婦同居の特長
父も母も年を取って病弱ですが、二人で支えています。いっしょにホームへ入りたいと言っているのですが、国民年金で暮らしているから、有料の所へは入れません。特別養老ホームに夫一人暮らしで暮らしています。

夫婦同居の特長
父も母も年を取って病弱ですが、二人で支えています。いっしょにホームへ入りたいと言っているのですが、国民年金で暮らしているから、有料の所へは入れません。特別養老ホームに夫一人暮らしで暮らしています。

夫婦同居の特長
父も母も年を取って病弱ですが、二人で支えています。いっしょにホームへ入りたいと言っているのですが、国民年金で暮らしているから、有料の所へは入れません。特別養老ホームに夫一人暮らしで暮らしています。



いまを生きる

西能正一郎対談シリーズ

西能正一郎対談シリーズ

西能正一郎対談シリーズ

西能正一郎対談シリーズ

基本があつての芸術

発想と技術が高い次元で一致

基本があつての芸術

基本があつての芸術

基本があつての芸術

西能正一郎対談シリーズ

西能正一郎対談シリーズ

より活性化を

第四回院内研究発表会から

「看護業務の中で身につけるコスト意識」
(看護部十二人、発表者、金谷智恵子)

「看護職員の一一人一」職場でコスト意識をもつて業務をしているか」では46人が「ある」28人が「まあまあ」1人が「ない」と答えた。「私生活においてコスト意識があるか」では、35人が「ある」33人が「まあまあ」7人が「ない」と回答。

職場の金銭感覚「ある」が61.3%

看護業務でのコスト意識

節水、節電に留意は58.7%

「はい」と答えたものはつぎのとおりである。

①給料明細表は32人、42.6% ②夜勤手当は27人、36% ③時間外手当は29人、38.9% ④診療報酬は9人、12% ⑤患者さんの治療費、入院費は15人、20% ⑥衛生材料は37人、49.3% ⑦患者さんが負担しているオムツなどの節約は35人、46.7% ⑧業務上使用する伝票の節約は43人、57.3% ⑨節水、節電は44人、58.7% ⑩「よい仕事をしたいと思うか」は全員が「はい」と回答し、よい仕事への意欲が強いことがわかった。しかし、よい仕事を望んでいるが、設問九項目の合計は「はい」が42%、「まあまあ」が42.5%、「あまりない」が15.5%という結果から、まず中間管理者がコストを把握して影響を与え、コスト意識に判断し、コスト意識についてのレポート提出と、勉強会を計画実施した。

十二演題を

発表
一月三十一日、五階ホールで開いた第四回院内研究発表会の十二演題(うち一題は別項)の発表者、所属はつぎのとおり。

「看護サービスの向上を目指して」平野多佳恵、看護部三階東チーム十三人、「術後機能性腸管麻痺と食事」津川久美子、看護部三階西チーム十二人、「手術室看護の充実をめざして」金子昭典、看護部中材・手術チーム六人、「適温給食への試み」二口雅子、栄養部十三人、「当院のMRSAの汚染状況について」横井佐敏、検査室三人、「当院における自衛消防活動」森紀子、事務部施設係六人、「新聞の死亡広告について」吉崎智、総務課、痛みの表現方法の「工夫」松井香織、看護部二階西チーム十人、「安楽な経管栄養への過程」刑部和子、看護部二階東チーム十三人、「当院における人工関節置換術後の追跡調査から」飛田勉、リハビリテーション科五人、「院外処方箋の功罪」西能正二郎、薬剤部、地域医療七人。

病院だより

一月

地域のための病院を理事長、院長が年頭所感

四日五階ホールで開かれた仕事始めの互礼会で、西能理事長は「地域にあつてよかつたといわれる病院づくりを」と、西能院長は「今まで以上にチームワークを盛り上げてほしい」と年頭所感を述べた。

二月

大山部長が院外健康教室

六日「かたかご保育園」で健康教室。大山内科部長が「健康を守るために」を講演。

七日「互助会が牛岳温泉センターで職員、家族の親睦会。

十三、十四日「パレボール」日本リーグ男子富山大会に看護班。

十八日「西能理事長が県農村医学研究会(厚生連高岡病院地域医療研修センター)のシ

が西能院長(五階ホール

三月

一日「西能理事長が県民生涯学習カレッジ(県民会館)の人間探

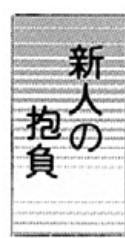
究講座で「腰痛とのおつきあい」を講演。

五日「西能院長が富山市中老田公民館(富山市市民健康センター主催)で「骨粗しょう症について」の講演。

七日「西能理事長がボルファートとやま(全労済富山地区共済会女性部)で「腰痛とおつきあい」を講演。

七日「山本部長が福光町主催の「山田シンポジウム」(山田地

が県スポーツ少年団認



新人の抱負
新人の抱負
新人の抱負

日々の業務を誠実に
看護を通して患者さんから学ばせて戴く事

診療体制のご案内

休日診療 (日曜日・祝日)		平日診療 (月曜日～土曜日)		救急出動 OK もし、救急車が必要でしたら、連絡して下さい。お迎えに上がります。常時2台待機しています。	通院バスのご案内	
整形外科 午前8時30分～午後5時	整形外科 午前8:30～12:00 午後4:00～7:00	スポーツ外来 火・土曜日 午後4:00～7:00	神経内科外来 木曜日 午後2:00～5:00		①富山駅・西町コース 丸の内→西能病院→富山大橋→丸の内 旅籠町→西町→桜橋通り→富山駅→新富町	
内科 午前8時30分～午後5時	内科 午前9:00～12:00 午後3:00～5:00 (火・金曜日は7:00)	在宅看護・診療 木・金曜日 午後1:30～4:00	泌尿器科外来 土曜日 午後1:30～5:00		②婦中・長沢・金屋方面 金屋→西能病院→神明→羽根→約坂農協 友坂口→平岡→古里郵便局→速星駅	
リハビリテーション科 午前8時30分～午後5時	リハビリテーション科 午前8:30～12:00 午後1:30～7:00	栄養指導 月曜日～土曜日 午前10:00～11:00		③呉羽・中老田・北代・田刈屋方面 畑中→西能病院→吉作→花ノ木→中老田 北代→呉羽駅→女子短大		